

1 開 会

2 事務局挨拶

3 議 事

(1) 市内各学校の規模の現状に伴うメリット・デメリットについて

(2) デメリットを克服するための各学校・地域・市全体の取組について（【 】は令和4年5月1日現在の数）

ア 教職員を代表する委員からの報告

・幼稚園【2幼稚園、3こども園、2保育所】

《メリット》地域に根差した教育や異学年の交流が行いやすい。

《デメリット》教職員が子どもに過干渉になりやすい。

・大字陀小学校【全校児童186名、学級数：6】

《メリット》個に応じたきめ細やかな指導や異学年交流、地域に根差した教育活動が行いやすい。

《デメリット》児童の人間関係が固定化する。教員の業務量が増える。集団の登下校が保障できない。

《取組》ICTの活用や地域人材との交流により対話的な学びを保障。バスルートの見直し。

・菟田野小学校【全校児童143名、学級数：6】

《メリット》個に応じた指導ができる。校外学習や体験学習がフットワーク軽く行える。

《デメリット》児童の人間関係が固定化する。教員の業務量が増える。

《取組》人間関係の固定化が負の要素とならないように、互いのよさを認め合える集団づくり。

・榛原小学校【全校児童293名、学級数：12】

《メリット》多様な人間関係が築くことができる。委員会活動やクラブ活動の選択肢が増える。

《デメリット》一人の子どもにかかる時間が少なくなる。

《取組》総合的な学習の時間を核に据え、地域学習を通して多様な他者と交流を図る。

・榛原東小学校【全校児童231名、学級数：9】

《メリット》教員の目が行届きやすく、職員全体での児童理解が可能。児童の通学の負担も少ない。

《デメリット》クラス替えができず、児童も保護者も人間関係が固定化する。

《取組》人間関係の固定化を解消するため、縦割り活動等の教育内容を工夫。

・榛原西小学校【全校児童72名、学級数：6】

《メリット》児童が多くの役割を経験することができ、責任感が育つ。教師が児童の実態把握をしやすい。

《デメリット》児童の発達の段階に応じた集団活動が困難。少人数の登下校に伴う安全確保に不安。

《取組》異学年交流やICTを活用した交流学習の実施。

・室生小学校【全校児童100名、学級数：6】

《メリット》教師、子ども、地域との関係が親密。児童の発言の機会が増え、主体性が身に付く。

《デメリット》児童の人間関係が固定化する。多人数で行う行事が困難。教員の校務分掌が多くなる。

《取組》幼小中合同の行事やICTを活用した交流学習の実施。

・大字陀中学校【全校生徒107名、学級数：6】

《メリット》個に応じた丁寧な指導ができる。子ども一人一人の個性が埋もれない。

《デメリット》チームスポーツが行いにくい。自力での通学が困難な生徒が多い。

《取組》オンライン学習や市内全域での部活動の検討。

・菟田野中学校【全校生徒91名、学級数:4】

《メリット》個々の生徒の状況を把握しやすい。運動場や体育館などの施設をゆとりをもって使える。

《デメリット》様々な価値観を持った人との交流が少ない。部活動が少なく、個別の希望に対応できない。

《取組》生徒、教員共に他校との交流を図り、幅広い見識を身に付ける。市内全域での部活動の検討。

・榛原中学校【全校生徒338名、学級数:11】

《メリット》話し合い活動が充実し、学びが深まる。多様な人間関係によりコミュニケーション能力が高まる。

《デメリット》一人一人の子どもに目が行き届きにくくなる。

・室生中学校【全校生徒71名、学級数:3】

《メリット》個々の生徒の状況を全員で共有し、きめ細やかな指導ができる。異学年交流を行いやすい。

《デメリット》教員の目が届きすぎて、主体的な学習態度の育成や切磋琢磨する機会が少なくなる。

《取組》体育大会などの行事で縦割り活動を行い、生徒の主体性や自尊感情などを育成する。

イ PTAを代表する委員からの報告

- ・大字陀小学校は、先生の目が届きやすく、子ども同士の関わりが深いのが、クラス替えがないので変化や刺激が少ない。クラス数は少ないが、教室が狭く、1学級当たりの人数は多いという印象。
- ・菟田野小学校は1学級20人程度で、地域での校外学習も行いやすく、学習面で充実している。少人数集団の中で育てているため、大きな集団に入ったときにうまく人間関係を築けるのか心配。
- ・榛原は、榛原西小学校を除き、子どもの数が多いため、クラス替えや部活動で多くの人と関わる機会が多く、人間関係を調整する力を身に付けやすい。榛原地区で独自に行っているアンケートからは、子どもの数が少なくなることに不安をもつ保護者の声もあり、無視できない。
- ・室生小学校のメリット・デメリットは、学校からの報告のとおり。室生では、室生学校協議会を立ち上げ、魅力ある学校づくりに向けて話し合っている。少人数のデメリットは、異学年や他校との交流やオンラインを活用するなどして解消できると考えており、少人数だからこそ、主体的に発信できる子どもを育てたい。

ウ 地域住民を代表する委員からの報告

- ・学校のない地域は衰退する。教育委員会のビジョンをたたき台として示してほしい。
- ・青年団で活動した自分の経験から、広域で友達を作ることは意義のあること。「宇陀市は一つ」という考えを前面に出して考えてほしい。
- ・榛原は新興住宅地も多く、学校を地域の中心にという考え方は、他地域と比べて少ない。まちづくり協議会や民生児童委員等多くの組織が旧4町村で行われている現状で、オール宇陀という考え方は難しい。
- ・現役の保護者でない世代は学校の現状が分からないので、メリット・デメリットについては意見できないが、室生学校協議会で提案されている取組は持続可能なものなのか。何人までを少人数制とするのか。保護者や地域といった大人の目線ではなく、子どもの目線に立って考えてほしいという意見があった。

エ 意見交換

- ・学校間交流などデメリットを克服する取組については、今すぐにもできることはやってほしい。

- ・それぞれのメリットを生かせるように、宇陀市全体として、学年ごとに少人数の学校から規模の大きな学校を作り、通えるようにできないか。子どもの数が減っているからこそ、市全体で友達を作ってほしい。
- ・このまま小規模校を残せば、その維持管理費を負担するのは今の子どもたちである。室生地域は特色のある学校づくりについて考えているが、他の地域は何もしないなら消滅の学校だと思う。
- ・学校数を変えても、中身が同じでは子どもの学ぶ環境は変わらない。教育の中身を変えていきたい。
- ・市内の現役高校生や大学生は少人数指導を受けてきた当事者なので、彼らに意見を聞いてはどうか。
- ・小中一貫校や複式学級など具体的にイメージしにくいので、もう少し知識をインプットする時間が欲しい。
- ・教員の立場から言うと、今後、学校の統廃合により、家庭訪問に何十分もかかる学校ができた場合、転勤を希望する教員がどれだけいるかと考えると、教員の質の確保に不安を感じる。
- ・子どもに学力を付けることと地域を守ることは別の話。子どものことだけを考えるなら、この推進委員会に自治会の代表者は必要ないのでは。

●事務局より

- ・小中一貫校のメリットは、教員の兼務により、小学校で中学校教員による専門的な教育を行うなど特色のある教育が期待できることにある。しかし、各学年の子どもの数を増やす手立てとはならないので、1学級何人までなら少人数を生かした特色のある教育を行うことができるかという視点を持つことは重要。
- ・諮問内容にあるように、学校教育の充実という視点に立って、自分の子どもや孫を通わせたいと思う学校とはどのようなものかという視点で考えていただきたい。
- ・この会議がこの先、どう落ち着くのか不安だという声も聞かれるので、委員長と協議の上、今後のスケジュール案を提案させていただく。答申までに残された時間を考えると、そろそろ具体的なシミュレーションをしていく必要があるのではないか。

○委員長のまとめ

- ・この委員会が始まった当初は、先に事務局のビジョンを示してほしいという意見があったが、事務局側は徹底して委員会で議論してほしいという流れの中で、室生地域が自分事として議論を進めていることに、他の地域は刺激を受けた。
- ・大規模にも小規模にも共にデメリットとメリットがある。スケジュール感を持って具体論に進まなければいけない。次回に向けて、具体的にシミュレーションすることで一層自分事として考えられるのでは。必要な情報は委員も可能な限り集め、事務局にも提供をお願いする。
- ・教育は町おこしの根幹であるが、教育委員会から諮問を受けているので、教育を話の中心に据え、あくまでも子どもの視点を大事にしたい。自治会は地域の声を伝え、保護者もそれに耳を傾けながら接点を見出していくことが大切である。

4 連絡事項

- ・次回の第5回宇陀市学校適正化推進委員会は10月28日(金)18時から宇陀市役所大会議室で開催予定。

5 閉 会